

A-096「鶏鳴」(鶏既に鳴けり)『詩経』国風 齊

「鶏鳴いたわよ」

AKY訳

さつき鶏鳴いてたわ  
ねえ、もう、お勤めにいかなきやね

「鶏鳴いたわけじゃない  
蠅の羽音がするだけさ」

お空が明るくなったわよ  
ねえ、いそいそでお勤め行かなきやね

「おひさまのぼったわけじゃない  
月が明るく照るだけさ」

蟲がぶんぶん飛んでいる  
お昼よ、お勤め終いだわ

ねえ、あなた  
夕べはとつてもよかったわ  
でもきつとみんなが噂してるわよ

(原詩)

(読み下し文)

鶏既鳴矣  
朝既盈矣

鶏既に鳴けり  
朝(ちよう)既に盈(みち)る

匪鶏即鳴  
蒼蠅之聲

鶏則ち鳴くにあらず  
蒼蠅(さば)えの聲なり

東方明矣  
朝既昌矣

東方明けたり  
朝既に昌(しょう)たり

匪東方即明  
月出之光

東方則ち明けるにあらず  
月の出の光なり

蟲飛薨薨

蟲(むし)飛んで薨(こう)々(こう)

甘與子同夢

甘(たの)しみて  
子(そなた)と夢を同じくすれども

會且歸矣

会(つとめ)は且(は)や歸(おわ)らん

無庶予子憎

庶(もろび)との予(われ)と子(そなた)に  
憎(しみ)無(から)んことを

「ねえ、あなた、もう朝よ。早く起きてお勤めに行かなきゃ。」

「うーん。まだ、早いよ。もう少し寝かせてよ。」

新婚早々の若い二人、奥さんは、ご主人を勤めに行かせようとせかしているけれど、ご主人のほうは、昨晚のお疲れがまだ抜けません。ぐずぐず言っています。女のほうも口では世間のことを言ってはみたものの、本当は、やはり、離れたくない、一緒にいたいのです。新婚早々の若い男女の気持ちが伝わってくるような詩です。

「詩経」(Shi Jing)は、中国最古の詩篇です。古くは単に「詩」と呼ばれていました。もともと舞踊や楽曲を伴う歌謡であったと言われ、各地の民謡を集めた「風(ふう)」、貴族や朝廷の公事・宴席などで奏した音楽の歌詞である「雅(が)」、朝廷の祭祀に用いた廟歌の歌詞である「頌(しよう)」に大別されますが、このうち「風」は、周・召・邶・鄘・衛・王・鄭・齊・魏・唐・秦・陳・檜・曹・豳の十五の国と地域の小唄や民謡を収め、「**国風**」とも呼ばれていて、庶民の生活や、男女のことを主題にした素朴でおおらかなものが多いようです。

周と召は、下に南をつけ、「周南」、「召南」、他は、「鄭風」、「齊風」のように風をつけて分類されています。

この詩は、「齊」のもの。齊は、「太公望」呂尚の封じられた国で、現在の山東省付近にありました。

この詩は、「朝」をアサと読むか、「チヨウ」と読んで、朝廷、官吏の勤めと解するかで、詩の意味が変わってきます。通常の解釈では、朝と解して、この詩は、夫婦の朝の風景を詠んだものとされていますが、松枝茂夫さん、白川静さんは、會を男女の媾會であるとして、逢瀬の後、きぬぎぬの別れを惜しむ歌と解しておられます(松枝茂夫「中国名詩選上」岩波文庫、白川静「詩経 国風」東洋文庫)。「アサ」説では、女が男に「もう朝になつたから、帰って。」といっているのであり、「お勤め」説では、「もう、お勤めに行く時間よ」といっていることとなります。

インターネットには、中国の古典を集めたサイトがあり、ここに、この英訳が乗っていました(下参照)。朝を, court, とまた、「會且歸矣」は、the assembled officers will be going home, と訳して、通常の解釈に拠っています。わたしも、こちらを採用しました。

また、最後の「無庶予子憎」もわかりにくいところ。どれが主語なのか。「庶(ひと)とが予(わたし)の子(あなた)を憎むことが無いように」橋本循さんと読んだり、白川静さんのように子の字は間違つて入ったといつて「庶(ねがわ)くは、予(わたし)を憎むこと無からん」と読んだりしていますが、どれも無理があるように思います。わたしは、左の英語訳にしたがつて、「庶(ひと)とが、予(わたし)と子(あなた)を憎んでいるのではないかしら」と心配しているものと解釈しました。

"Ji Ming"  
The cock has crowed;  
The court is full.  
But it was not the cock that was crowing;  
It was the sound of the blue flies.  
The east is bright;  
The court is crowded.  
But it was not the east that was bright;  
It was the light of the moon coming forth.  
The insects are flying in buzzing crowds;  
It would be sweet to lie by you and dream.  
But the assembled officers will be going home;  
Let them not hate both me and you.

(中國哲學書電子化計劃)